

## 自然教室だより

### 5月・新緑のならやま自然観察会報告

辻本 信一

平成30年5月14日(月)、「ならやま」にて今年2回目となる観察会を開催いたしました。

前日までのドシャ降りの雨もすっかりあがり、当日は朝から快晴の願ってもない観察日和となりました。おかげで参加者も17名となり、活気あふれる楽しい観察会となりました。



【朝の集合】

これまでの観察会では、私たちの身の回りの植物の姿かたちを捉え、草花の種を特定する、同定作業に重きを置いた観察会を進めてきましたが、今回はさらに一步踏み込み、健気にかつたくましく生きる植物の生態に目を向け、その生き方に視点を置く観察会を心掛けました。

そのため、聞きなれない植物用語もたくさん飛び出し、参加者の皆さまには多少の戸惑いもあったかと思いますが、皆さん熱心にメモを取っていただき、終始真剣に説明を聞いてくださいました。

四阿(あずまや)のそばに植えられた郵便局のシンボルツリー、タラヨウの前では、葉の裏への字書き実演に続き死環(ライターであぶってできる黒い輪っか模様)の様子をクイズ(左右に重なる死環の合わせ目の模様は?二重丸の死環はどうすればできる?)を解いてもらいながらの観察。参加者の皆さまからは驚きの声が出ました。



【タラヨウの観察】 【池の周りは野草の宝庫】

西池に向かう途中では、ナンテンの葉に注目。多数枝分かれしている枝のような部分は、それ自

身が大きな1枚の葉(複葉)であることを説明、単葉、複葉の違いをご理解いただきました。

その隣では、同定の材料となるひときわ目立つ托葉(たくよう:葉の基部や葉の柄に生じる葉に似た部分)を持ったノイバラを観察。

カラスノエンドウの托葉上の黒い点(花外蜜腺)観察中には、折よく蜜目当ての蟻が枝を行き来する姿が目にとまりました。



【複葉形成過程説明】 【カラスノエンドウ観察】

この後も、ガクや花びらに代わる外花被片(ガイカヒヘン)、内花被片(ナイカヒヘン)それぞれ3枚からなるシャガの変わった花の構造とメシベに隠れたオシベの様子、単面葉(葉の裏面が表面を挟みこみ裏面のみで構成される特殊な葉)からなるシャガの葉の構造観察。

ムラサキサギゴケのメシベの柱頭運動(ペン先などでメシベの先に刺激を与えると開いていた口が閉じる)については、それぞれがペンとルーペを持ってその動きを確認しました。



【里山入山】 【エゴノキの花】

他にも、蜜を持たないシランの、虫に花粉を運んでもらうための強かな工夫などなど、里山入山時の観察も含め、目につくものすべてが教材となり、植物観察の話題は尽きませんが、紙面の関係で今回はこの辺までとさせていただきます。



自然に興味のある方、植物のことをもっと知りたいと思われている方は、これからも楽しくためになる観察会を開催いたしますので、次回はぜひご参加ください。